

福井県立音楽堂(ハーモニーホールふくい)

所在地	福井市今市町40-1-1		
設置年月日	平成9年9月20日		
施設の種類	音楽ホール	施設管理主体	(財)福井県文化振興事業団
設置の目的	本県における音楽文化の振興を図り、県民の芸術文化の向上に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階、地下1階、延べ11,649㎡、大ホール、小ホール、練習室(6室)、インフォメーションセンター		
管理運営担当職員数	常勤職員9人(うち県派遣4人) 非常勤嘱託職員5人 アルバイト1人 計15人		

行政コスト計算書(平成15年度) (単位 千円)

		総額	構成比
人にかかるコスト	人件費	78,656	12.2%
	退職給与引当金繰入	2,754	0.4%
	計	81,410	12.6%
物にかかるコスト	物件費	183,808	28.5%
	維持補修費	6,713	1.0%
	減価償却費	227,140	35.1%
	計	417,661	64.6%
その他	公債費利子	147,289	22.8%
	その他	267	0.0%
	計	147,556	22.8%
合計		646,627	100.0%

他に音楽堂事業補助82,825千円あり

バランスシート(平成15年度末現在) (単位 千円)

借方		貸方	
資産		負債	
有形固定資産	14,896,135	固定負債	2,740,555
投資等	534	流動負債	1,320,281
流動資産	0	正味資産	10,835,833
計	14,896,669	計	14,896,669

施設の特徴	北陸初の音楽専用ホールとして開館後、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団やニューヨーク・フィルハーモニックなど世界の超一流のオーケストラの公演が実施されるなど、国内有数のホールのひとつとして高い評価を受けている。また、その優れた音響性能については、アーティストの評価も高い。
	一流演奏家を招いた公演以外にも、地域に根ざした活動を行っている県内音楽家や、本県出身の著名アーティストが出演するものなど、県民が音楽を身近に感じることができ多彩な公演が実施されており、県民の音楽に触れる機会が増加した。
	全国から受講生を集め、楽器ごとに隔年で実施されているハーブ・マリンバのマスターコース(上級セミナー)は、本県にゆかりの深い両楽器を全国にPRできる絶好の機会となっている。 また、小・中学生が楽器に興味を持つためのきっかけづくりとして、ハーブ・マリンバ・ヴァイオリン・チェロのふれあい教室も開催されている。
	県民の日頃の音楽活動発表の場、練習の場として比較的low料金で利用でき、県内の音楽レベルの向上に寄与している。

平成15年度の活動実績	県民の音楽活動の発表の場および練習の場として、県民にホール、練習室を開放しており、年間のべ約14万人が利用した。特に6室ある練習室は、従来から県内の音楽愛好者や団体等により頻繁に利用されており、利用率はほぼ100%である。
	施設管理主体である(財)福井県文化振興事業団により、世界のトップレベルのオーケストラ等のコンサートをはじめ、県内音楽愛好者や本県出身の著名アーティストが出演するもの等多彩な公演が年間を通じて実施された。15年度は、人気の高い「スタニスラフ・ブーニン ピアノリサイタル」や「小松長生指揮東京フィルハーモニー交響楽団」、「夏休みファミリーコンサート(福井交響楽団・福井ソアールベ児童合唱団)」等10公演で、チケットが完売し、多数の来場者を集めた。
	平成15年10月から16年3月にかけて、大ホールを半年間閉鎖し、パイプオルガンを設置した。

収入 (単位 千円)

収入(15年度)		金額	割合
利用料等収入	30,817	4.8%	
その他収入	3,953	0.6%	
一般財源	611,857	94.6%	

利用料等収入計	30,817,000 円
利用者1人あたり平均利用料	220 円
利用者1人あたりコスト	4,615 円

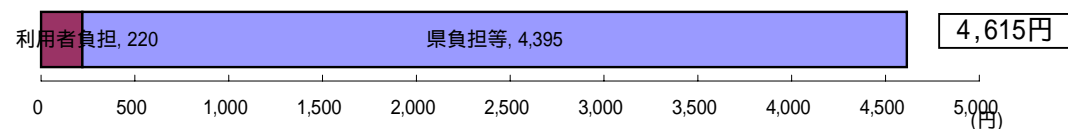
利用状況等

	13年度	14年度	15年度
利用者数(人)	157,972	177,307	140,121
ホール利用率(%)	60.3	62.2	59.7

利用者負担(利用料金)等

施設使用料	大ホール(休日)	58,000円
	小ホール(休日)	32,000円
	練習室6(平日)	870円

利用者1人あたりのコストの状況(15年度)



今後の事業方針・取組み内容	パイプオルガン設置により、演奏可能な音楽の幅が広がったことから、これを積極的に活用し、県内の音楽文化の更なる振興を図る。
	音楽演奏を中心とした講演会やシンポジウム等での利用を広く呼びかけ、新たな利用者を開拓するとともに、ホール利用率の向上を図る。
	県民に魅力のある公演を継続して実施できるよう、また、普段、芸術音楽になじみの薄い県民にも興味を持ってもらえるよう公演企画の充実に努める。